

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000120		
法人名	北見福祉事業サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム しあわせ館		
所在地	北見市東相内町143-32		
自己評価作成日	令和3年6月14日	評価結果市町村受理日	令和3年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の生活のリズムを大切に、認知症の症状による『困りごと』が『困りごと』にならないように対応を行っています。利用者様の動きに沿ったケアを行っているため、起床時間、食事時間、就寝時間も決められておらず、その日の調子によって決まります。利用者様・職員ともにゆとりとした日常生活を送るために、常に『今』を大切に、利用者様の『今』の希望をお聞きし、支援につなげることに力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000120-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年6月30日(令和2年度分)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年に開設されたグループホームしあわせ館は2階建て2ユニットで、事業所周辺は新興住宅が建ち並び田園風景も広がるのどかな環境になっています。法人は同敷地内にデイサービス・サービス付き高齢者住宅・有料老人ホーム・居宅介護事業所・訪問介護事業所を展開する積極的な高齢者介護を行っています。利用者への生活に対する満足感を高め、豊かな暮らしに繋げるため一日の流れは決めておらず、利用者本人のペースで時間が流れており本人の出来ることや「今」の希望を把握しながら本人らしさを追求したケアに尽力しています。現在、コロナ禍で制限が多く、その中でも日々を楽しむようにと昼食バイキング・しあわせ館食堂・外で昔懐かしい薪ストーブを活用してのラーメン作り等、多彩な食の工夫に取り組んでいます。又、利用者の生き生きとした表情を引き出せるようにと管理者・職員は利用者さんをさりげなく支えるため、黒子として動く「待つケア」を大切に温かな支援を行っています。利用者・家族・職員との信頼関係は良好で終末期ケアにも取り組み、最期まで散歩や入浴など本人の希望を聞きながら支えています。開設時から理念「人に寄り添い 笑顔で語らう」「人に寄り添い 心に寄り添う」を管理者・職員は意識共有し利用者本人の気持ちにより添った介護の実践に努めており、笑顔で暮らすことが出来る事業所になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を掲げ、地域の方にも認知症の理解を深めていただき認知症になっても住みやすい地域を目指し様々な取り組みを行っていききたい。	開設時からの理念を各ユニット・事務所・玄関等の目に付きやすい所に掲示し、常に認識できるようになっています。管理者は会議時に理念の大切さを伝え職員への浸透を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の公園までの散歩をしたり、施設の避難訓練にも参加していただいていた。現在コロナ禍により交流はできていないが、事業所の行事への参加を呼びかけ事業所の理解を深めていききたい。	コロナ禍のため交流機会は中止となっておりますが、終息の際には事業所行事への参加呼びかけや以前のような関わりが持てるようにと検討しています。週1回の移動販売車・週2回のパン屋さんでの買い物を利用者の楽しみとして支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、しあわせ館の認知症の症状に対する取り組みをお伝えしている。地域での困りごとに対して窓口となれるように運営推進会議を通じて声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2カ月に一回運営推進会議を行っている。現在はコロナ禍のため、資料の配布のみ。	年6回の運営推進会議は書面会議となっており、議事録は市担当者・包括支援センター職員に配布し、理解が得られるよう努めています。	作成した議事録は他のメンバーや全家族にも配布し、事業所の情報を共有できるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ出向いたり、運営推進会議の際の資料をお渡しし、担当者に相談や意見をいただいている。また必要に応じて協力をお願いしている。	管理者は市担当者と相談したり、情報共有に努め、協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを行っている。スピーチロックを含めた不適切ケアについても、日ごろから気を付けるように話し合いを行っている。	身体拘束廃止委員会は運営推進会議と一体的に設置しています。管理者は法人代表・常務・統括マネージャーによる月1回の統括会議の中で話し合いを持っています。日頃から不適切なケアにならないよう常に職員に発信し、利用者本人本位のケアを実施しています。	身体拘束適正化についての対策を検討する委員会の開催や職員への定期的な研修を実施されるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、スタッフは日常的なケアへの困りごとを共有し、ケアの見直しを行うことで虐待が起りやすい環境にならないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、スタッフは日常生活自立支援や成年後見制度について理解が乏しい。今後研修会への参加や、社内研修にて理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族の不安や疑問に対して時間をかけて説明を行っている。新たに不安や疑問点があれば、その都度連絡をいただき管理者から説明を行って理解を深めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望については、日常的な会話から聞き取り、ご家族には面会時の聞き取りと意見、要望があった際は都度連絡をいただき、管理者が対応を行っている。	利用者の要望は日常の会話から家族とは来訪時や必要に応じて管理者が聞くように努めています。面会が制限される中、利用者の様子はテレビ電話・月1回発行するしあわせ新聞・管理者からの手紙で近況報告を行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員の意見を聞き、必要に応じて柔軟な対応を行なっている。	管理者は定期的を開催する会議や日常業務の中、申し送りノート等で職員の意見・提案を聞く機会とし、必要に応じて運営に活かしています。職員が手薄の時は法人役員が現場の手助けをすることで現状の理解に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、労働時間等を把握し、個別面談を通して各自が取り組むことを明確にしている。頑張っている人が報われるように給与に反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力に応じた研修を確保するようにしているが、コロナ禍のため研修への参加が難しい状況がある。現在は、資料配布による研修を主とし、知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、同業者との交流する機会は減っている。しかし他事業所との連携を図り、事業所内の困りごとに対して対応ができるように相談、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の際は、ご本人、ご家族と信頼関係の構築を行い、ご本人の生活状況の把握をしたうえで、支援の方向性や対応について決めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者を中心に、スタッフとご家族との信頼関係構築に努めている。面会の際には、声をかけ、不安や要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用開始する前に、ご本人・ご家族とお会いして困りごとを確認し、必要な支援が行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に、利用者様にも役割をもっていただけるようにしている。また、ご自身でできることを積極的に行っていただけるよう、日常的なかかわりを通じて信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのつながりを大切に、コロナ禍による面会制限中であっても、テレビ電話や、動画、写真などによって、利用者様の状況の発信を行い情報の共有を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍による面会制限、外出制限のためできることは限られているが、手紙の代筆を行い、旧友とのつながりが途切れないように支援を行っている。	管理者が利用者の友人に年賀状の代筆を行い、関係が途切れないよう支援しています。ぬり絵や歌を楽しんだり新聞を読むなど、これまでの生活習慣の継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を見極め、お互いが助け合って生活できるよう配慮をしている。実際に、利用者様同士の声掛けで落ちつかれる様子も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される場合は必要に応じて情報提供は相談・支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話からご本人の希望をくみ取り、支援を行っている。会話が困難な方は、ご家族と相談させていただきながら、表情を見て対応を行なっている。	職員は利用者とは過ごす時間を大切に、日々の会話の中から希望の把握に努め、意思の疎通が難しい利用者には職員の声かけや表情等から「今どうしたいか」を確認して対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的な会話でご本人のやっていたこと、暮らし方をお聞きし、会話が困難な方はご家族からの聞き取りを行って把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録用紙を工夫し、生活リズムの把握を行っている。また、特記事項としてその時々々の状況を詳しく記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望をお聞きし、しあわせ館でできること、できないことについて職員同士共有することにより現状に即した介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの生活のあり方を追求し、管理者・職員は申し送り時やサービス担当者会議・モニタリングで現状の情報を共有し、本人本位の介護計画を作成しています。個人記録にプラン内容の確認が出来る工夫がされており、利用者の行動や会話内容を記入し、利用者の状況把握に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの根拠について、ご本人の会話や動きを記入することとしている。その内容を共有することで、ケアの実践を振り替わりを行うことが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍により、面会制限・外出制限のある中、テレビ電話による近況報告や、写真や管理者からの手紙による近況報告を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により面会制限・外出制限を行っていないなか、現状を把握していただいたうえで地域の訪問理容の訪問の継続や、移動販売の継続など感染対策をおこないながら日常生活の中に楽しみを持っていただけるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択はご本人、ご家族の希望に応じている。また、ご本人の体調に応じて往診対応への移行についても、医師、ご家族と相談のもと行っている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診はグループホーム職員、法人社員と協力しながら行い、家族の希望で通院されている方もいます。往診、週1回の訪問看護師により健康管理が行われ利用者の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護の健康チェックがあり、利用者様の体調や受診結果などを報告し、情報を共有している。そのため、医療面で不安なことがある場合は対応について相談し都度適切な支援を受けることができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は、基本情報、ADL、日常生活について等を医療機関と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、しあわせ館の看取りに対する指針を説明を行い、ご家族の意向を確認している。ご本人の状態に応じて話し合いを重ね、しあわせ館における支援を理解していただき、希望に沿うように努めている。	契約時に利用者、家族に重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する指針により説明し、利用者の状態・体調・思いを考慮し同意を得て看取り介護を支援しています。全職員で支える体制、寄り添い、不安を軽減し最期までその人らしく過ごせるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時の対応についての周知は行っているが、全スタッフに実践する力が身についているとは言えない。実践力が身につくよう、研修を行っていききたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を年2回実施している。発電機の保管場所、使用方法についても避難訓練の際に周知、研修を行っている。	年2回、昼夜想定で自主火災訓練を多機能ホーム・サービス付き高齢者向け住宅と合同で実施しています。初期消火の仕方や停電時の非常用自家発電機が設備されており使用方法の訓練も行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保については、会社として取り組んでいる『人としての成長』の部分において、全スタッフが気を付け対応を行なっている。	職員は利用者の困りごといち早く気づき、利用者への意識を集中し支援の機会を逸さないよう努めます。コミュニケーションが一方通行にならないよう利用者を尊重し羞恥心に配慮した対応を心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中の会話から、ご本人の希望をお聞きし支援につなげている。また生活スケジュールに関しても、ご本人が『今どうしたいか』を確認し自己決定に基づいて対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズム・ペースを大切にし、日々の業務の流れを変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、入浴時の髪染めも行っている。また、その人らしい服装をしていただけるように支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下の状況に合わせて、できる限り本人の好きなもの、好む味付けのものを提供している。食事の準備・片付けにおいては、できることをお願いしている。	利用者の好み、希望を伺い当日の食材で調理し利用者一人ひとりのタイミングで食事を提供しています。しあわせ館食堂では4種類のメニューから選んでもらったり、調理師資格を持つ職員が寿司を握ったり、野外で薪ストーブでのラーメン作りや流しそうめんなどバラエティーに富んだ食事会となっています。行事食や誕生日にはバイキング形式の食事や手作りケーキで祝い楽しくなるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は主治医と相談しながら決めている。食事量の減ってきた利用者様には主治医と相談し必要に応じて栄養食の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。肺炎のリスクの高い方は毎食後の口腔ケアを行い、口腔スポンジやジェルなどの利用も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、トイレ誘導やパット交換を行っている。また、尿量や日中の活動、夜間の睡眠状況に合わせて、パットの種類を変えて対応を行っている。	利用者一人ひとりの仕草や表情などを見極め、トイレでの排泄に努めオムツ対応の利用者もいますが不快な思いをさせないよう心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの水分量の確保に、飲めるもの、飲みたいものを取り入れて力を入れている。排便の兆候が見られた際にトイレ誘導を行い、普段はおむつ排泄の方もトイレでの排泄が出来る方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴の声掛けを行っている。ご本人の希望に合わせ、日にちや時間は変更して対応を行なっている。	週2回を基本とし利用者の体調、希望に沿いながら清潔保持を保ち心身が爽快な気分になってもらうよう状態を観察しながら入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせて休息をとっていただいたり、就寝介助を行っている。ご本人から訴えることが難しい方は、表情や姿勢などいつもの様子と比較し対応を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師の資格を持つ職員を中心に、薬の内容、服用状況の把握を行っている。処方内容の変更等があれば、周知し、服薬後の状態の変化を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な会話の中から利用者様の楽しみを見つけ、支援を行っている。感染対策をしっかり行いながら、ご本人の希望に応じてなじみの場所へのドライブや、食べたいもの、飲みたいものの提供など、生活の中に楽しみをもていただけるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出制限があるため、出かけることはできていない。しかし敷地内の自動販売機までジュースを買いに行ったり、移動販売車での買い物支援、敷地内の散歩はご本人の希望に合わせて行っている。	天気の良い日は散歩や畑への収穫に出たり、日用品などの移動販売車、パンの販売が来所し買い物を楽しんだり、事業所前の野外食事などで外に出る機会を設け気分転換になるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所されている方はお金を所持していない。ご家族からお預かり金という形で職員が預かり、必要に応じて職員が支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話の利用や、手紙の代筆などの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気を行い、エアコンを使用し、室温や湿度にも注意をしている。	共用空間は年中行事の飾り付けや季節の花などが飾られています。ソファには利用者の居場所が決まっている方もいます。自然に利用者同士で助け合う場面もあり、のんびり、ゆったりと個々の体調に合わせた生活の流れに沿いながら過ごしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員からの誘導ではなく、居心地の良い場所を利用者様個人個人が見つけ、同じ場所で過ごすことで落ちついている様子が見られている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご自宅からタンスやベッドなど使い慣れたものを持ち込んでいただいている。ご本人の希望でラジオや演歌を居室で聞けるようにCDラジカセを持参していただくなど工夫をしている。	居室にはベットや筆筒が備え付けられ、使い慣れた物が持ち込まれています。家族写真や絵、遺影などを飾ったり、新聞を読んだりと家庭の延長であることで利用者のやりたい事の継続を支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに『トイレ』と貼り紙をし、わかるような工夫をしている。また、夜間も居室の出口がわかるように少し戸を開けておくことで、見当識障害のある方もトイレの際はご自身で居室からトイレまで行くことが出来るように対応を行なっている。		